

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	スタッフの目につくところに掲示したり、会議などで共有している	理念は事務所の職員の目のつきやすい所に掲示されている。「この街でその人らしさをいつまでも」の理念を掲げ、職員は日常の関わりの中でその人らしさの把握に努め、それを実際の生活に反映させようと努力している。職員への聞き取りの中でもそのことが感じられた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	感染症への懸念から、以前ほどの交流は実施できていないが、日常の散歩の時や、地域の活動への参加などを通じて交流している。	コロナ禍で以前のような地域交流会等の付き合いが出来ない状況が続いているが、ほぼ毎日のように出掛けている散歩等を通して、近隣の方との挨拶等のふれあいを継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	キャラバンメイトを通じて、地域の方々に理解を広めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	活動内容や事故・ヒヤリハットの報告をし、助言を頂き業務改善に取り組んでいる。	コロナ禍のためこ2年間開催できず。3か月に1回、取り組み状況などを書面にまとめ、参加予定者に配布されている。	運営推進会議の議事録は玄関に掲示されているが、コロナ禍でなかなか目に触れる機会も少ない。ご家族にも送付されてはどうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	施設の実情、空床状況などを通じて関係を築くようにしている。	上記の通り、連携の良い機会でもあった運営推進会議がコロナ禍で開催されていないため、以前と比較すると連携する機会は少なくなっている。メール等でやり取りすることが多くなっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設内研修で、拘束についてスタッフへ周知している。夜間や、解放が不安な場面以外は玄関の施錠は行っていない。安全面に配慮したうえで、できるかぎり自由に生活を行っていたりしている。	身体拘束に関する研修を年に1回開催し、管理者を中心に、身体拘束をしないケアに取り組まれている。現在、玄関の施錠を含めて身体拘束は行われていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	毎月の会議の中で、不審な点はないか話し合っている。変わったことがあればすぐに報告するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	まだ行えていないが外部研修に参加する予定。今後必要な場合対応できる体制を作る予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、時間をかけて説明を行い、時間をもって質疑応答に答えられるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎月のお便りを通じて利用者の様子をお伝えしたり、家族の訪問時や、電話などで思いを聴くように努めている。	家族が届け物等で訪問した際や電話等で、意向や要望を確認するようにしている。最近では家族からの要望で面会について、感染レベル3以下であれば玄関外で面会が出来るように改めた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	時々個人面談を設けたり、アンケートを通じてスタッフの気持ちや思いを聴くようにしている。	管理者との1対1の個人面談と、必要に応じて職員アンケートを行い、職員の意向を把握し運営に反映させている。最近ではコロナ対応に関する意見が出され、不明確な部分を話し合いで修正。玄関外に洗面所を設けて手洗いで済ませたいとの意見を実現させた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	月1回の代表者会議にて状況を把握し、早急な対応をしてくれている。賞与や昇給などで反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	月1回の代表者会議にて実際と力量を把握している。早急な対応をしてくれている。外部研修にも協力的に対応してくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	介護フェスタへの参加や、キャラバンメイトフォローアップ研修などで交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面接にて生活状況、身体状況を把握したり、アセスメントシートを定期的に更新するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前面接にて、思いや不安などを聴き、入居後も事情によっては、まめに連絡を取るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事前の相談で話をしっかりと聴き、事業所ではどのような対応ができるか検討、提案している。また、他事業所の介入が必要な際も柔軟に対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	できることは補助をしながら、自分で行ってもらう事に努めている。また役割を持っていたり、スタッフと一緒に家事などを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	現在感染症の懸念から、以前ほど近い接触は行えないものの、必要な措置を講じたうえで面会・外出はできるようにしている。また毎月のお便りにてご本人の状況をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	電話や来訪にて今も交流をもっている方も多し。ご本人と直接お話をされなくとも、定期的に安否を気遣って電話をくださる方もいらっしゃる。	コロナ禍でも面会はレベル3以下であれば、玄関外で距離を取る等の対策を講じて可能となっている。安否等を気遣って電話をくださる方には取り次ぐなど、コロナ禍において出来る範囲で関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	席変えをしたり、レクを通してスタッフが間に入り、孤立しないように心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も連絡をくれ、知り合いを紹介していただけることもあり、実際に紹介にて入居されている方もいる。相談にいつでものりますと、終了後に話している。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日の関わりの中で思いや希望を把握するようにしている。希望を行事に取り入れるようにしている。	理念を実現するためにも思いや意向の把握には特に力を入れている。日常の関わりの中で「～に行きたい。」「～を食べたい。」等の思い等を把握し、それを実現できるように取り組んでいる。昨年は利用者の「お寿司を食べたい。」との希望から新潟旅行を企画し、実現させた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に情報を聞いたり、日々の会話から情報を得ている。茶碗やお椀は使用していたものを家から持ってきてもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎月の会議にて利用者全員の時間をしっかりと、意見交換している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者ごとに担当スタッフを配置して、意見を出している。家族にはお便りや、電話にて意見を確認している。	ケアマネージャー及び利用者ごとに配置された担当者を中心に、本人の想いや意見、要望、また家族には電話や面会等で意見をもらい、それらを職員会議で話し合い、チームで介護計画を作成し、その後のモニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	スタッフ全員が日々の記録を確認し把握するようにしている。電子カルテを導入し、以前よりも利用者様の最新情報を確認しやすく、確認漏れが減っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人や家族の要望になるべく応じている。デイサービスや訪問診療など。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	感染防止措置を講じたうえで地域のイベントやお祭りなど参加している。訪問カットにて2カ月に1度ヘアカットをして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	受診は基本的に家族の希望にて医療機関を決めていただいている。緊急対応時はスタッフが付き添い、提携医療機関に受診している。	かかりつけ医は、本人及び家族の希望で決められる。基本的に受診は家族対応となる。家族が対応が難しい場合や緊急時は施設職員が対応する。受診時は、付き添う家族に対して、本人の体調など必要な情報を事前によく説明し、適切な医療を受けられるよう連携に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員の配置はないが、訪問診療にて日々の状態や異変等、情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族や病院関係者と連絡を取り合い、情報共有に努めている。早期退院できるように、受け入れ準備をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合は早めに家族と連絡を取り、次の受け入れ先の相談や、提案など一緒に進んでいる。	看取りに関するマニュアルが作成され入所時から看取りに関する説明を行っている。重度化した際に家族・本人・医師等関係者で今後の方針等を話し合っていく。現状では、施設で対応が可能な限りの看取り対応を行っており、これまで2名の看取りが行われた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	地域の消防署に依頼し、救急の研修を行ったり、AEDを実際に使い練習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練、通報訓練、消火訓練を定期的に行っている。3日分以上の備蓄品も備えている。	年2回の避難訓練、消火訓練が実施されている。2階は2方向から避難できるようになっている。3日分以上の備蓄あり。飲料水は1週間分あり、また温泉を引いている。ポータブル電源やAEDも常備されている。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	日常のケアの中で気になる行動や言動などは、毎月のフロアミーティングにて話し合い、共有を図っている。	管理者及びリーダーが中心となり利用者の尊厳とプライバシーの確保に努めている。職員の対応で気になる言葉掛けや対応等は毎月行われる会議で話し合いを行い、必要に応じて個別での対応がとられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	食事レクや行事など、利用者様の希望に沿う活動を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	メリハリのある生活を送りたいため、基本的な一日の流れはあるが、毎日違うレクなどを取り入れたり、ご本人の体調・思いに寄り添った過ごし方など要望に応えられるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎朝一人ずつの整容を心掛けている。また、起床時や外出する際、化粧をする利用者様もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	月に一度は必ずおやつレクや食事レクを行い、準備から食事まで利用者と職員が一緒に行っている。	基本的に配食サービスの半分調理された食材にアレンジを加えて提供している。月に一度利用者からの意見、要望に答える形で、希望のおやつや食事をフロアで作ってご提供する機会を設けている。利用者は日常的に食事の準備、後片付け等にも参加されていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	外部の給食サービスを利用しており、栄養バランスを考えた食事を提供している。ごはん量は個々の状態に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、職員が付き添い一人一人に合わせて口腔ケアを行っている。また就寝前は入れ歯を外し、洗浄剤に浸けて清潔保持をしている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	おむつは使わず、昼夜を通し基本トイレ誘導を行い、自立支援を行っている。	各々の排泄パターンの把握に努め、昼夜を通し適した時間にトイレに誘導し、排泄は基本的にトイレで出来るよう努めている。結果オムツ使用量の削減にも繋がっている。紙パンツから布パンツに移行できた方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日の定期的な散歩・運動などを心掛けている。また、ヤクルトや寒天などを摂取し、腸内環境を整えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	目安として入浴日を定めているが、要望に応じて変更し、スタッフと利用者1:1の対応を心掛けている。	各々おおよその曜日は決まっているが、気分や体調等により時間帯や曜日を変更する等、柔軟に対応している。1週間で2回、多い方で3回、職員と1対1でゆっくりと入浴されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中、メリハリのある一日の流れを心掛け、疲れすぎないように30分程度の午睡を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人一人の処方箋を個人ファイルに保存し、いつでも閲覧できるようにしている。体調を把握しながら医師に相談し、薬の変更をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	掃除、畑、花壇の水やり、洗濯など、利用者様それぞれに役割を持っていただき、気分転換をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	普段の会話の中で希望を把握し、感染症予防に留意の上外出するよう努めている。	日常的な外出にかなり力を入れており、コロナ禍でも天候の良い日は積極的に散歩に出掛けている。施設の近隣は静かで環境もよく、散歩コースには季節を感じられる大きな公園や諏訪湖の湖畔まで行くこともある。また年1回バス旅行にも出掛けており、昨年は新潟県をバスで観光して楽しんだ。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的に事務所で預かっているが、希望される利用者様には手元にお財布を持っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者様宛の電話は場所に配慮し取り次いでいる。手紙をやりとりをされている利用者様もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	施設らしさを消し、自宅にいるような安心感のある空間を作り出すよう努力している。	民家を改築した棟のユニットは勿論だが、新設した建屋のユニットについても施設の雰囲気せず、日中過ごすフロアも採光良く明るくて、自宅のような落ち着いた雰囲気作りがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	玄関ホールやリビングの空きスペースにソファや椅子を置き、くつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人のなじみのあるものや大切なものを持ち込んでもらい、本人好みの部屋にしている。ご家族とご本人で部屋を飾り付けられている方もいる。	本人がこれまで使用してきたタンス等の家具や時計等の小物、また仏壇を持ち込まれている方もあり、各居室とも個性あふれる空間となっている。建屋も民家を改築している為鴨居がある部屋等もあり、施設感のない落ち着いた居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人の力を生かせるよう、いろいろな場所に手すりを配置している。歩行時はスタッフが寄り添うよう心掛けている。		